*市民講座「旬のみやぎに会いに行こう」レポート*

# 至福の一時を味わう

Report／MELON 会員　吉本守一

9 月 12 日（日）は、まちにまった第６回 MELON 環境市民講座「旬のみやぎに会いに行こう」の日でした。ずんだもち作りを枝豆の収穫から体験するのがテーマの企画です。

実は 49 歳の私は、子どもの頃祖母の手伝いで、ごまや枝豆をすり鉢でよくすらされたものです。「シャリシャリ」と荒い音を立てていたすり鉢は、砂糖や塩、日本酒で味をととのえるとねっとりとつややかに変化し、やがて主役の食材の顔になっていきます。私はこの企画に、もぎたて、ゆでたて、すりたての３たてはもちろんのこと、すり鉢を押さえる仕事､祖母が疲れると交代したすりこぎの感触に、時空をさかのぼり遭遇したいという密かな期待を持って参加したのでした。

畑を提供し指導してくださる農家の三浦隆弘さんから枝豆の説明を聞いた後､畑に飛び出しました。あっという間に枝豆を畑から引き抜き土を落として、豆を手でもぎ、さらに機械でもぐのも体験させていただきました。

たくさんとれたよ！

豆はじきでは、新鮮なもぎたての枝豆が元気よくボールにぶつかり外に飛んでいきます。「ごめん」「ごめん」という言葉が飛び交いました｡その後､枝豆をかわるがわる交代してすりました｡本当によい体験でした。

できあがったずんだもちは色鮮やかでおいしそう。一粒一粒はじいた後だけに、ずんだのあんは少したりとも残せません。なめるように平らげたのは言うまでもありません。「ごちそう様でした！」

芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋、天高く妻肥ゆる秋……すべてを満喫した一日でした。

*市民講座「伝説の港☆野蒜（のびる）築港探検ツアー」レポート*

# 人と自然のかかわりを学ぶ

Report／MELON 会員　篠原富雄

9 月 25 日（土)、石巻市蛇田の運河交流館を起点に、鳴瀬町の野蒜築港跡、鹿島台町にある元禄潜穴を探検しました。講師は岩手県立大学の山田一裕先生です。自然を自然のままということではなく、人間の営みとのかかわりで観ることが大切、運河の景観も運河らしく残すということが大切であるというお話が印象に残りました。

最初の見学場所となった石井閘門（こうもん）は、水位に落差のある北上川から北上運河に船が通れるようにする施設で、２つの扉で水の流れを止めて水位を調節します。世界中の運河についているそうで、その写真が運河交流館のデータベースで見られます。

野蒜築港

野蒜築港跡地までマイクロバスで北上運河沿いを南下、葦が水辺に生えているところや、岸辺が崩れてしまっているところ、松が赤く枯れているところなどを見学、何よりも水がにごっているのが残念でした。運河を生かした風景に、整備とともに運河が生きて水が流れていればもっと水がきれいになるのではと思いました。

野蒜築港は、宮城県を河口とする東北地方の２大河川である北上川と阿武隈川の河口を運河で結び、その中間点である鳴瀬川河口に内港と外港の拠点を作り、福島県、宮城県、山形県、岩手県を結ぶ物流の拠点とすることを目的に明治 11 年に着工されました。残念ながら明治 17 年の台風により突堤が流され、折からのデフレ財政の中で中断のやむなきにいたったものです｡もし､そのまま継続していたら、横浜港に劣らない一大港になっていたかもしれません。鳴瀬川に並行する吉田川と鹿島台町品井沼干拓にかかわる元禄潜穴の見学とあわせて、自然と人間のかかわりについて考えさせられるツアーでした。